

大会におけるレーススケジュールの変更について

競技委員長

大会においては、荒天や暑熱による選手および関係者の安全を優先し、レーススケジュールを変更する場合があります。以下はレーススケジュール変更に係る競漕委員会の考え方をお伝えする目的で記しました。

まず、

競漕規則では大会の実施要件を以下のように定めています。

第6条（実施要件）

- 1 大会は、原則として晴雨を問わずに行われる。ただし、競技者の安全と健康等に配慮し、著しい気象条件の悪化その他の重大な理由で、競漕委員会が競漕の開催・続行を不相当と認めたときは、その開催日時を延期、あるいは中止することができる。
- 2 大会中途での中止で、決勝レースが行われなかった場合の競技結果の取扱い等については、中止前の直近のラウンドの成績やタイムトライアルの結果などを参考に確定し、その内容（順位や表彰の有無等）を速やかに競技者その他の大会関係者に公表するものとする。
- 3 大会の継続は可能であるが、気象条件が悪く、公平に漕ぐことができない場合、または、そうなる可能性が高いと予想される場合、競漕委員会は、次の各号の中から適切な選択をする。
 - （1）最も公平な条件を提供するレーンを使用する。
 - （2）悪化した気象条件を避けるために競漕日程を変更する。
 - （3）気象条件の悪化中レースを中断する、または不公平が生じたり、漕げなくなる前に発艇（スタート）時刻を変更する。
 - （4）状況が改善された後でレースを再開する。
 - （5）その種目の1つ以上のラウンド（たとえば準決勝）を省略する。その場合、次のラウンドの組み合わせは、終了したラウンドの結果を基にして決める。
 - （6）対象となるクルーのタイムトライアルを行う。

第6条（実施要件）第3項細則

競漕委員会は本項各号によりがたい場合、公平な条件を確保できる合理的な手法を選択することができる。

実際の大会においては、各要因に応じて競漕規則に沿った対応を検討します。

変更となってもその日のレースはその日のうちに行えるよう検討します。それが困難な場合は翌日以降に持ち越すなどして、なるべくすべてのレースが実施できるよう検討します。

例えば、暑熱を避けるため昼休みの時間を延期する、落雷などでレース困難となって残るレースを

翌日に延期するなどです。

予定された大会期間内にすべてのレースが行えないと判断したとき、競漕委員会は選手権としての趣旨を踏まえ「安全を優先しながら選手権としてあるべき1位を決めること」を基軸に以降のレーススケジュールを検討します。

昨今は、猛暑日は増加し、気象は急変します。

これに対して競漕委員会では、数年前より気象予報士からアドバイスを得ながらレースを運営しています。しかしかにかにプロの意見を聞くとはいえ、落雷やゲリラ豪雨など急な変化は予測が困難な場合があります。

このようにレースを避けるべき日時や時間帯が予想不能であることから、そのさまざまな状況に応じた変更パターンをあらかじめ提示することはできません。

ここでは、

すべてのレースを予定した大会期間内に行えない時、「安全を優先しながら選手権としてあるべき1位を決めること」を目指したレーススケジュール変更の一部を例示することで、競漕委員会がどのような判断をするかご理解いただきたいと思います。

1) ラウンドを省略する

敗者復活戦や特定のラウンドを実施しない場合があります。その際、種目におけるラウンド遂行はできるだけ守りたいと思います。

特定のラウンドを実施しない時、予選や直前のラウンドにおける結果を判断材料として次に進出するクルーを決めることとなります。

今年のある大会では、酷暑の中で選手の健康を守るため昼休みを延長しましたが、その後夕刻に雷が発生したことから以降のレースは実施不可能と判断し、結果として敗者復活戦が実施できない種目が発生しました。この時は予選タイムを材料として次に進むクルーを決定しています。

ですので、同一種目における同一ラウンドはなるべくすべて実施したいと考えます。

例えば、M1xの敗復が4レースある時、その4レースまでは実施するようにし、次に実施される種目（W2xなど）からは荒天中止とするような判断です。

2) 次のラウンドへの進出方式との関係

次のラウンドへの進出方式がどのようなものであるかは、レーススケジュール変更する上で大きな要

素となります。

今大会における次のラウンドへの進出方式は着順式となります。（タイム式ではない）

着順式は、レース毎にコンディションがイコールではないことからレースの着順こそが第一の判断基準になるべきだ、という考え方で世界ローイング選手権や全日本ローイング選手権でも採用される方式です。ただ、前述のようにどこかのラウンドがなくなった際、次のラウンドへ進出するクルーを決めるのに、異なるレースにおける結果を比較する必要があります。その時は前ラウンドにおけるタイムを判断材料に使用することがあります。

上記1) 2) はあくまで例示ですので、実際の状況においては選手権の趣旨に沿って別の判断を行う場合があることもご理解いただけたらと思います。

以上